

生活交通確保維持改善計画（案）について

生活交通確保維持改善計画とは、交通不便地域の移動手段確保を目的としており、鉄道や地域間幹線バスなどの地域間交通ネットワークに接続することで、地域住民の生活交通手段を確保・維持させるための計画です。地域公共交通の目的・必要性・定量的な目標・効果、運行系統の概要等を「中津川市公共交通網形成計画」との整合性を図り記載しています。

計画が認定されますと、運行に対して、国から補助金の支援が受けられます。

本議案は、この「生活交通確保維持改善計画（案）」について、書面をもって議決を求めるものです。委員の皆様にご意見を伺いいただき、国土交通大臣宛に認定申請書を提出します。なお、中部運輸局の指示により変更を行う必要が生じた場合、軽微な変更については事務局へ一任いただきますようお願いいたします。

1. 計画案

資料 1 のとおり

2. 補助対象となる系統

福岡地区コミュニティバス	矢平線、若山線、新田線、本郷線、上之平・下組線
坂下地区コミュニティバス	上野線、上野・外洞線、上野・外洞線（短縮ルート）、上野・合郷線、外洞線（上り）、外洞線（下り）、西方寺・握・高部線
北恵那バス	坂本三坂線、坂本三坂線（市民病院経由）

3. 補助対象期間

令和 3 年 1 0 月 1 日から令和 4 年 9 月 3 0 日までの運行分

資料 1 生活交通確保維持改善計画（案）

生活交通確保維持改善計画の名称
中津川市地域内フィーダー系統確保維持計画
1. 地域公共交通確保維持事業に係る目的・必要性
■現状 <ul style="list-style-type: none">➢ 中津川市は岐阜県の南東部に位置する山間のまちで、中心市街地以外は山間部に多くの農村集落が点在している。➢ 主な市内の公共交通として、市南東部にはJR東海中央本線、南西部には明知鉄道を有し、中心市街地及びその周辺ではタクシーが運行しているものの、それ以外の地域では路線バスがほぼ唯一の交通手段となっている。
■課題 <ul style="list-style-type: none">➢ 自家用車の普及や人口減少、少子高齢化により通勤・通学などを主とした路線バス利用者が減少し、一部の地域では民間バス路線の廃止に直面したことで、廃止代替や欠損補助を行い市民の交通手段を確保している。➢ 既存の交通体系では対応しきれない地域内交通の確保のため、幹線となる民間バス路線を補完する目的で地域内フィーダー系統を運行しているが、採算性は低く財政面で市の大きな負担となっている。
■目的・必要性 <ul style="list-style-type: none">➢ 2018年3月に、中津川市の公共交通を取り巻く課題を解決し、公共交通網の維持を目指す中津川市地域公共交通網形成計画を策定した。➢ 「住んでよかった、住んでみたい街に。～公共交通網の維持で定住を推進～」を基本方針とし、①定住を支える公共交通、②観光と利用促進、③運転手不足解消に向けて、といった目標のもとに公共交通網の確保・維持に向けた取り組みを進めている。➢ 中津川市地域公共交通網形成計画を踏まえ、複数の交通機関が役割を分担し、地域・交通事業者・行政の連携により利便性の高い持続可能な公共交通網を維持すること、また、地域公共交通確保維持事業により地域内フィーダー系統を確保・維持することで、地域住民の日常生活に必要な移動手段を存続させていくことが必要である。

2. 地域公共交通確保維持事業の定量的な目標・効果

(1) 事業の目標

中津川市地域公共交通網形成計画で設定した目標値との整合性を図るため、本計画における目標値は、補助対象系統ごとの利用者数を基準年度（2016年度）以上とする。

地区	番号	運行系統名	利用者数	
			目標値 (2016年度)	実績値 (2020年度)
福岡	1	矢平線	790人以上	230人
	2	若山線	263人以上	17人
	3	新田線	905人以上	541人
	4	本郷線	767人以上	251人
	5	上之平・下組線	544人以上	217人
坂本 中津	6	坂本三坂線	8,170人以上 ^{※1}	—人 ^{※2}
	7	坂本三坂線（市民病院経由）	1,296人以上 ^{※1}	—人 ^{※2}
坂下	8	上野線	724人以上	591人
	9	上野・外洞線	1,740人以上	1,295人
	10	上野・外洞線（短縮ルート）	728人以上	1,547人
	11	上野・合郷線	312人以上	537人
	12	外洞線（上り）	2,112人以上	1,412人
	13	外洞線（下り）	300人以上	258人
	14	西方寺・握・高部線	908人以上	576人

※1 2021年4月の坂本三坂線実証運行による月間利用者数を基に、年間利用者数を推計した数値とする。

※2 運行開始前のため実績値なし。

【参考】中津川市地域公共交通網形成計画における定量的な目標（中津川市地域公共交通網形成計画 P.30 参照）

評価指標	数値目標
住民1人あたりの公共交通年間利用回数	8.6回/人以上

※住民1人あたりの公共交通年間利用回数は、公共交通利用者数を住民1人あたりに換算して算出するものであり、公共交通利用者数は下記を合計した数としている。

- 北恵那バス年間利用者数
- 明知鉄道阿木駅と飯沼駅の年間乗降者数
- 自主運行バス年間利用者数（補助対象系統を含む）

(2) 事業の効果

- 地域住民などの日常生活に必要な不可欠な移動手段が確保される。
- 幹線と地域内フィーダー系統が連携することで、効率的な運行体系が構築され、自家用車などを持たない方の通学や通院、買い物などの生活に必要な移動手段を確保することができる。

3. 2. の目標を達成するために行う事業及びその実施主体

①公共交通の運行を継続します（地域公共交通網形成計画 P.14 参照）

- 市内9地区でコミュニティバスを運行【交通事業者等（中津川市委託）】
- 乗り継ぎが可能な路線バスの時刻を記載した時刻表を配布するなど、相互の利用促進を図る【中津川市、交通事業者】
- 運行経路や時刻を改編する際には、運行事業者や利用者の意見を聞き、地域の実情にあった見直しを行うことで利便性を向上させる【中津川市、交通事業者、地域住民組織】
- 維持が困難となったバス路線について、多様な選択肢を検討・協議し、地域に最適なサービスを継続する【中津川市、交通事業者】

②経路検索の充実に向けたデータ整備（地域公共交通網形成計画 P.23～24 参照）

- バスデータ整備とオープンデータ化を行い、データ活用を通じて利用者の利便性向上に取り組む【中津川市、交通事業者】

③公共交通の利用促進に向けた取り組み（地域公共交通網形成計画 P.21～22 参照）

- 既存路線バスを活用した観光商品開発を行い、デジタルチケット等の導入に向けた検討を行う【中津川市、交通事業者】
- 北恵那バス車内にデジタルサイネージを設置し、公共交通の利用促進に資する情報や行政からのお知らせ、民間企業広告を放映。市民サービスの向上と、移住・定住の促進、地域企業の発展に役立てる【中津川市、交通事業者】

※補助対象路線だけでなく、中津川市内の公共交通網全体を見据え、地域公共交通網形成計画に基づき事業を実施する。

4. 地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行システムの概要及び運行予定者

表1を添付

5. 地域公共交通確保維持事業に要する費用の負担者

中津川市

6. 補助金の交付を受けようとする補助対象事業者の名称

補助対象事業者の名称	地区	番号	運行系統名
北恵那交通株式会社	福岡	1	矢平線
		2	若山線
		3	新田線
		4	本郷線
		5	上之平・下組線
	坂本 中津	6	坂本三坂線
		7	坂本三坂線（市民病院経由）
株式会社サカガワ	坂下	8	上野線
		9	上野・外洞線
		10	上野・外洞線（短縮ルート）
		11	上野・合郷線
		12	外洞線（上り）
		13	外洞線（下り）
		14	西方寺・握・高部線

7. 補助を受けようとする手続きに係る利用状況等の継続的な測定方法 【活性化法法定協議会を補助対象事業者とする場合のみ】
該当なし
8. 別表1の補助対象事業の基準ニただし書に基づき、協議会が平日1日当たりの運行回数が3回以上で足りると認めた系統の概要 【地域間幹線系統のみ】
該当なし
9. 別表1の補助対象事業の基準ハに基づき、協議会が「広域行政圏の中心市町村に準ずる生活基盤が整備されている」認めた市町村の一覧 【地域間幹線系統のみ】
該当なし
10. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項 【地域間幹線系統のみ】
該当なし
11. 外客来訪促進計画との整合性 【外客来訪促進計画が策定されている場合のみ】
該当なし
12. 地域公共交通確保維持改善事業を行う地域の概要 【地域内フィーダー系統のみ】
表5を添付。
13. 車両の取得に係る目的・必要性 【車両減価償却費等国庫補助金・公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ】
該当なし
14. 車両の取得に係る定量的な目標・効果 【車両減価償却費等国庫補助金・公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ】
(1) 事業の目標
該当なし
(2) 事業の効果
該当なし
15. 車両の取得計画の概要及び車両の取得を行う事業者又は地方公共団体、要する費用の負担者 【車両減価償却費等国庫補助金・公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ】
該当なし

16. 老朽更新の代替による費用の削減等による地域公共交通確保維持事業における収支の改善に係る計画（車両の代替による費用削減等の内容、代替車両を活用した利用促進策）
【公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ】

該当なし

17. 貨客混載の導入に係る目的・必要性
【貨客混載導入経費国庫補助金を受けようとする場合のみ】

該当なし

18. 貨客混載の導入に係る定量的な目標・効果
【貨客混載導入経費国庫補助金を受けようとする場合のみ】

（１）事業の目標

該当なし

（２）事業の効果

該当なし

19. 貨客混載の導入に係る計画の概要、要する費用の総額、内訳、負担者及び負担額 **【貨客混載導入経費国庫補助金を受けようとする場合のみ】**

該当なし

20. 協議会の開催状況と主な議論

【2019年度】

- ・ 2019年6月24日 第1回中津川市公共交通会議
中津川市地域公共交通網形成計画の変更について、生活交通確保維持改善計画について、バス乗り継ぎに伴うコミュニティバス運賃の割引について
- ・ 2020年1月21日 第2回中津川市公共交通会議
地域公共交通確保維持改善事業に関する自己評価について、（一社）最先端田舎中津川での地方バス活性化の取り組みのご紹介、中部運輸局長表彰（一般協力者）の受賞について

【2020年度】

- ・ 2020年6月24日 第1回中津川市公共交通会議
自家用有償旅客運送（市町村福祉有償輸送）の更新について、自家用有償旅客運送（公共交通空白地有償運送）の更新について、生活交通確保維持改善計画について
- ・ 2020年11月24日 第2回中津川市公共交通会議
北恵那バス 坂本三坂線の新設について、蛭川地区コミュニティバスの再編について、令和3年度生活交通確保維持改善計画の変更について、地域公共交通確保維持改善事業に関する自己評価について

【2021年度】

- ・ 2021年6月18日 第1回中津川市公共交通会議（書面開催）
生活交通確保維持改善計画について

※下線は中津川市地域内フィーダー系統確保維持計画に係る協議項目

21. 利用者等の意見の反映状況	
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 路線や時刻表の見直しにあたっては、運行区域ごとに利用者や市民代表、事業者、行政が参画する地域バス検討委員会を開催し、利用者の意見を反映している。 ➤ 運行事業者に聞き取りを行い、運転手などに寄せられた利用者意見の把握に努めている。 ➤ 必要に応じて利用者アンケートを実施し、地域住民の意見の集約に努めている。 	
22. 協議会メンバーの構成員	
関係都道府県	岐阜県都市建築部公共交通課
関係市区町村	中津川市定住推進部
交通事業者・交通施設管理者等	<p>【路線バス事業者】 北恵那交通(株)、濃飛乗合自動車(株)</p> <p>【タクシー事業者】 近鉄東美タクシー(株)、(株)サカガワ、東鉄タクシー(株)</p> <p>【鉄道事業者】 東海旅客鉄道(株)、明知鉄道(株)</p> <p>【中津川市コミュニティバス委託事業者】 (株)ごとう観光、NPO 阿木ふるさと福祉村、NPO かしもむら、NPO つけちスポーツクラブ</p> <p>【交通事業者団体】 岐阜県バス協会、岐阜県タクシー協会東濃支部</p> <p>【運転者団体】 北恵那交通労働組合</p> <p>【道路管理者】 岐阜県恵那土木事務所、中津川市建設部</p> <p>【公安委員会】 中津川警察署</p>
地方運輸局	国土交通省中部運輸局岐阜運輸支局
その他協議会が必要と認める者	中津川市区長会連合会、中津川市老人クラブ連合会、加子母地区高校通学バス運営協議会、付知高校通学バス保護者会、中津川市社会福祉協議会、名古屋大学客員准教授(学識経験者)

【本計画に関する担当者・連絡先】

(住 所) 岐阜県中津川市かやの木町 2-1

(所 属) 定住推進部定住推進課

(氏 名) 柘植 良吾

(電 話) 0573-66-1111 (内線 329)

(e-mail) teiju@city.nakatsugawa.lg.jp